

平成29年度「にこまちフォーラム」 開催報告

今年の「にこまちフォーラム」では、地域の皆さんによる活動報告や講師とのディスカッションを通じて、地域のつながりをひろげて深めるヒントを探ることができました。ご参加いただいた皆さんにも、それぞれの「今日からわたしにできること」を考えていただきました。

- 日時 平成30年2月24日(土) 13時～15時30分
- 場所 西公会堂 ●参加者 253名
- テーマ 「ひろげて深める、地域のつながり」
- 講師 西尾 敦史(にしお あつし)氏
(静岡福祉大学社会福祉学部教授)



人と人とのつながりが大切なこと。
これからの取組の
ヒントや気づきが
得られました！



導入講義

『地域の中で、子どもが健やかに成長するためには、地域社会でいろいろな人と出会い、遊んで学ぶような取組みを展開していくことが大切。また地域福祉保健推進の枠組みには、自助(私・家族)・共助(地域社会)・公助(行政)があり、中でも、「助けて」と言いやすいのは共助であり、その共助の取組は、「公」「共」「私」の協働・連携で作るもの』とのお話をいただきました。

地区活動報告

《第1地区》

地区懇談会として、4つの部会による取組の中で、「始めよう！居場所づくり」としてスタートしました。そして、地区の中に町内会館や空き家、店舗を活用した居場所ができました。

【西尾先生のコメント】

実際に居場所づくりを行ったことで、居場所としての効果が表れているように感じます。今後は生活支援サービスにもつながるのではないのでしょうか。



《第2地区》

「藤棚らいぶステーション」は、地域住民の憩いの場として開かれ、イベントなども行っています。年間利用者は約4,300人です。

【西尾先生のコメント】

地域のみならず運営され、様々な地域の皆さんの居場所にもなっています。立ち寄る方だけでなく、担い手の駅長さんにも、外出するきっかけづくりになっていると感じました。



《第3地区》

昨年度から3つの部会により、居場所づくり、情報発信等の取組が進んでいます。また岩井原中と地区内の福祉施設をつなぎ、中学校の職業体験を実施しました。

【西尾先生のコメント】

部会制をつくって総合的に取り組まれています。特に、地域資源である「福祉施設の多さ」を活かした福祉教育が進んでいると実感しました。

最後に発表があった移動支援の取組も、今後楽しみです。



《第4地区》

夏・冬休み期間は、子どもたちが家で留守番をしながら、独りや兄弟姉妹だけで昼食をとることが多いです。これを高齢者と共通した問題と捉え、「みんなの食堂」を開催しています。

【西尾先生のコメント】

孤食は、子どもに限らず大人にもあります。「みんな食堂」は、人のつながりを生む場にもなっていますね。



《第5地区》

子どもの居場所についての取組を、地区全体で進めています。高齢者のサロンとして始めた場を、将棋などを通じた多世代交流の場「放課後ひろば」として開催しました。

【西尾先生のコメント】

子どもは地域のいろいろな人と出会って成長します。「放課後ひろば」は、地域の教育力の場であることを実感しました。



《第六地区》

「広報」を切り口に、地区内の専門学校の協力も得ながら、情報発信をコツコツ進めています。

特に、今年は「にしろくちゃんキャラクターコンテスト」を実施しました。キャラクター案の応募は、6歳から71歳まで40作品。

皆さんの投票により決定しました。

【西尾先生のコメント】

広報は、情報発信だけでなく、人と人をつなげる役割もあることがわかりました。素晴らしい取組です。



～にしろくちゃん～

地区活動報告の中から、特に「居場所の機能」と「地域の担い手」に焦点を絞り、各地区の方との意見交換が行われました。

○居場所の機能

地域で居場所を開くと、様々な人がやって来ます。その中の人で『こんなことをしたい』と担い手になることもあります。居場所は、心通わせ挨拶して集まれるならば、いろんな場所があってもよいのです。

ひとつの活動が、ひとつの目的の達成に寄与するだけでなく、広がり、波及的にその他の効果を生むことにつながることもあります。例えば、商店街にある居場所では、集って来られる機能に加え、商店街の活性化にもつながることもあります。

参加の余地を残し、参加する方自身が広げていくことで、さまざまな機能が発揮できるようになります。

西区は、都市の地域特性があり、一人暮らしの方が多いという課題はありますが、居場所があることで、地域に関わる方、担い手や居場所の運営にも関わる方が多いという捉え方もできると思います。



○地域の担い手

担い手不足は、どこの地域でも深刻な問題です。

若い年代ほど、地域に関心がない。子どもたちに自治会町内会活動を『楽しい』『お友達とも繋がれる』と知ってもらうことで、親にも自治会町内会を意識してもらい、将来目を向けてもらいたいとの思いがあります。

働き世代も巻き込み、人を増やすためには、『これくらいならやってもいいかな』と思ってもらうことが大事で、参加したら毎回参加しなくてははいけないという考えではなく、「できるときに」参加してもらうという考えが大切です。負担の分散と責任の持たせ方のバランスを保ちつつ、人を集められるかが課題になっています。

また、いろいろな人が活動しやすい状況をつくる視点が大切です。「お助けマン」的な役割だったり、ちょっとしたお手伝いを頼むというようなことであれば担ってもらいやすいです。

全部自分たちでするのではなく、地域の中の隠れた人・ものの資源を見つけて繋げていくのが、「にこまちプラン」の大きな役割のひとつのように思います。

子どもたちの活動

○にこまちプランと子どもたち

戸部小学校の総合的な学習の時間の取組で、子どもたちが「にこまちプラン」について考え、地域の役に立ちたい！と考案した高齢者向けのニュースポーツや地域の活動に参加する楽しさを体験しながら「にこまちプラン」を応援する「にこまちこども応援団」の活動など、子どもたちの取組が紹介されました。

○子どもたちの活躍「にこまちこども応援団」

今回の「にこまちフォーラム」では、子どもたちがたくさん活躍してくれました。「にこまちのうた」の練習やバルーン作成の準備をして、ステージで合唱したり、終演後のホワイエで来場者の方に、お土産としてバルーンを渡したり、様々な活動を行いました。

○みんなで歌う「にこまちのうた」

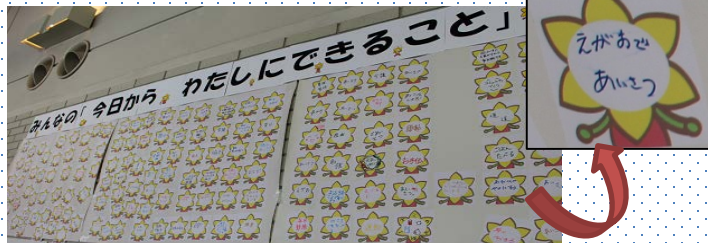
プログラムの最後に、岡野中学校手話部や宮谷小学校合唱部をはじめとする西区内の子どもたちと、地域の皆さんが、みんなで「にこまちプラン」のイメージソング「にこまちのうた」を歌いました。



ホワイエ

○みんなの「今日からわたしにできること」ボード

来場者の皆さんにも記入いただきました。



○各地区のパネル

ステージの活動報告で発表しきれなかった各地区の取組について、ポスターにまとめ、展示しました。



○体験型コーナー

お絵かきコースター



西区立体地図

